

山鹿温泉リハビリテーション病院が 担う役割について

令和5年11月7日
山鹿温泉リハビリテーション病院

1 現状と課題

理 念

自立した心と体の回復を目指して

基本方針

私たちは、患者さまの一日も早い社会復帰を願って、心のこもった「リハビリテーション医療」を行います。

1 現状と課題

沿革

昭和36年5月	田代外科医院（19床）
昭和53年7月	湯の里温泉病院（56床）へ病院名変更
平成2年8月27日	医療法人社団木星会設立
平成3年4月	60床
平成6年5月	山鹿温泉リハビリテーション病院（98床）へ 病院名変更
平成11年2月	101床
平成12年5月	居宅介護支援センター木星会開設
平成15年1月	「湯の里」通所リハビリテーションセンター開設
平成18年4月	鹿本地域療育センター開設 児童デイサービスセンター 「ロケット」開設
平成18年9月	児童デイサービスセンター 「ぐんぐんロケット」へ改名
平成24年4月	「児童デイサービスセンター」から 「こどもサポート広場」へ改名
平成27年3月	新築病棟使用開始

1 現状と課題

現況

許可病床数

101床（療養） 医療療養 66床、回復期リハ35床

平均在院日数

回復期リハビリテーション病棟 49.3日

療養病棟 187.4日

指定を受けている公費負担医療制度

- 生活保護
- 原爆被爆（一般疾病医療費）
- 特定疾患治療費等
- 児童福祉（小児慢性特定疾病医療支援）
- 難病患者特定医療
- 労働災害

1 現状と課題

標榜診療科

内科、リハビリテーション科、放射線科、神経内科、消化器内科
消化器外科

職員数 137名 (R5.10.1現在)

職 種	常勤	非常勤	職 種	常勤	非常勤	職 種	常勤	非常勤
医師	3	3	准看護師	7	1	言語聴覚士	6	0
薬剤師	1	0	介護福祉士	12	0	臨床心理士※	2	0
放射線技師	1	0	介護職	14	6	社会福祉士	7	0
管理栄養士	1	0	理学療法士	16	0	保育士	3	0
看護師	16	7	作業療法士	11	0	その他	14	6

※臨床心理士/公認心理師

1 現状と課題

特 徴

当院は、リハビリ専門医の指導のもと、リハビリ専門病院として回復期から慢性期の機能を持ち、患者さまの一日も早い社会復帰を願って、効果的な回復のため質の高いリハビリテーション医療の提供に努めています。

また、慢性期においては、地域に密着しあらゆる疾患の患者さんに対応できるよう努めています。

1 現状と課題

政策医療

5 疾病では脳卒中については急性期病院と連携し急性期での治療を経過し症状が安定した患者さまに、効率的なリハビリを実施し、社会復帰及び在宅復帰へ向け支援しています。

また、「湯の里」通所リハビリテーションセンター、訪問リハビリテーション、鹿本地域リハビリテーション広域支援センターを併設し、在宅支援も行っております。

5 事業においては、災害時における医療支援活動として避難所環境評価・改善策提案、要配慮の方へのリハビリテーショントリアージ等取り組んでおり、熊本地震の際も、実施しております。(JRAT)

1 現状と課題

他機関との連携

当院は、回復期・慢性期に対応した医療機関であるため、急性期医療機関との連携は必要不可欠であり、ご紹介いただいた患者さまについては、退院に向け治療およびリハビリテーションを実施し社会復帰・在宅復帰にのため支援を行います。

入院加療終了後は、地域の主治医の先生方へ逆紹介を行い、主治医の先生との連携した治療を継続します。

1 現状と課題

課 題

医療従事者の確保及び働きやすい職場環境

人手不足が社会問題となっており、医療従事者についても顕著となり、人材確保が難しい状況です。

また、賃金の上昇、光熱費等物価高騰に伴い、経費も上昇しており、先を見通した経営感覚が必要となっています。

60歳以上の方の積極採用等人材確保に努めるとともに、離職防止のための働きやすい職場環境づくりにも努めてまいります。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

当院は、リハビリテーション専門病院として、回復期、慢性期から積極的にリハビリテーション医療の充実に努め、退院後の訪問リハビリテーションや通所リハビリテーション等在宅に向けた治療を行い、患者さまの社会復帰のための支援を行うと同時に、地域の医療機関と連携し一日でも長く健やかな生活を継続するための支援を行う方針です。

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

新型コロナウイルス感染症に関しては、引き続き入院受入医療機関として、受入要請があった際には、速やかに対応し可能な限り入院受入に努めます。
(確保病床 2床)

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期	0	0	
急性期	0	0	
回復期	35	35	
慢性期	66	66	
その他	0	0	
合計	101	101	

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

診療科の見直しは、現時点では考えていません。

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(5年 9月時点)	2025年
①病床稼働率	74.0%	91.5%
②紹介率	69.2%	70.0%
③逆紹介率	8.3%	15.0%

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

地域医療における機能分担として、回復期を中心としたリハビリテーション分野について積極的に取り組んでいく予定です。急性期病院をはじめとする、地域医療機関からのご紹介を頂き、地域医療機関へ逆紹介を行う、という現在の形をより充実したものに推進していきます。

在宅に向け多職種連携により、積極的リハビリテーションの提供に努めます。そのために、職員についても、働きやすい職場環境を整備し、患者さまの療養環境改善のために、高年齢者も含め採用活動にも、力を注いでまいります。

また、各種研修、学会発表等、職員の質の向上への支援を行います。

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

2024年施行される医師の時間外労働制限について、『継続的な宿直または日直勤務許可』は令和5年8月2日付にて許可は取れています。

また、地域において今後担うべき役割を果たすためにも高年齢者のみならず、積極的に学校訪問等実施し新卒の採用にも努めてまいります。